

29年度 第1回 都市機能・生活関連機能サービス分科会 議事録

- (1) 日 時：平成29年11月24日（金）15：30～16：45
- (2) 場 所：久留米市役所 305会議室
- (3) 出席者：都市機能・生活関連機能サービス分科会委員10名（3名欠席）
世利座長、椎山副座長
事務局5名、各ワーキンググループ職員
※ワーキンググループは以下WGと表記
- (4) 議 事：

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

1. 開会

2. 議事

(1) 平成29年度連携事業進捗状況及び平成30年度事業計画・予算について

〔平成29年度連携事業進捗状況及び平成30年度事業計画・予算について説明〕

- 文化芸術鑑賞事業について、平成30年度事業はどのような見直しを行うのか。
- 今年度はチケットの先行発売を行っているが、30年度の具体的な内容は現在調整中ではある。久留米市と連携市町の役割にあるバスの手配などについても、今後整理していきたい。
- 小学校単位となっている事業内容についても見直すのか。
- 美術館での鑑賞とは異なり鑑賞できる日時や座席数にも限りがあるので、学校単位で来ていただく内容を見直したい。
- 先行予約枠はどれ位あるのか。
- シティプラザが持っている座席数の中から、久留米市を含む広域分として先行予約に配分している。
- 先行予約枠を設けた公演は、1日1公演か。
- 今年度は、1日1公演となっている。30年度の枠の設け方は、今後決定していく。
- チェコフィルハーモニー管弦楽団公演の来場者数は。
- 約1000名である。
- チェコフィルハーモニー管弦楽団公演の先行予約者数は。
- 発券時に住所確認を行うだけであったため、先行予約者数の把握は出来ていない。
- 大道芸の来場者数は。
- 昨年度の実績は、約1万5千人である。
- 小学校の文化芸術行事と連携した事業や他部局、各市町との連携の中でシティプラザの活用を検討していただけたら良いと思う。
- シティプラザのWi-Fiの繋がりが悪かったため、改善をお願いしたい。
- 文化芸術鑑賞事業で、1月の公演はインフルエンザが流行る時期であるため、今後、実施時期は検討したほうがよいと思う。北筑後のPTA連合会などに相談してもよいと思う。
- 文化芸術鑑賞事業の事業費の内訳は。
- 宮川彬良の公演の委託料である。
- 入場者には自己負担はあるのか。

- 大人2, 000円、小学生までは500円としている。
- 一時預かり事業の事業費が29年度と比較して30年度が減っている理由は。
- 一時預かり事業を実施している保育園等への補助金であるが、予算の執行状況にあわせた調整である。保育士不足により一時預かりに回せる人員が減少傾向ある。
- ファミリーサポート事業で、うきは市では活動休止のような状況になっているが、他の地域はどうか。
- うきは市の状況は、休止ではなくサブリーダーがいない状況で、直接市とやり取りをする状況になっている。他の地域も会員数は少しずつだが増加している。土日や長時間の預かりの要望に対し、久留米市では受け入れできるが、近隣での受け入れが出来ない現状はある。
久留米市では一人親世帯などに利用料の助成があるが、連携市町ではないので、各市町でもできればいいと思う。
- 助成制度については、各市町にも久留米市の状況を伝え、働きかけていきたい。
- 小児救急センター事業で、医師の働き方改革という全国的な動きもあり、診療体制の改善の要望なども出ている状況である。
- 小児科医の確保については困難な状況にあるため、久留米大学に補助金を交付し、結婚出産を機に一時休業された方などを対象に、復帰のための小児科医研修を実施している。
- 病児保育事業について、定員23名を上回る日があるのか。
- 予約をしていたが、当日、病児の体調が回復してキャンセルするケースもあるようである。また、インフルエンザなどの感染症が流行ると、キャンセル待ちになる場合もある。定員については、利用状況を見ながら、定員増も検討したい
- 広域で考えた場合、大刀洗町に近い病児保育施設がないので、検討いただけたらと思う。
発達支援時事業について、長い期間待たないといけないと聞いていたが、現在もそうであるか。
- 平成28年度から医師1名を常駐化し対応しており、現在では連絡を頂いて2ヶ月程度を目途に、相談そして療育が受けられるようになっている。
- ドクターカーの検討は進んでいるのか。
- 各市町に久留米市の運行状況などを報告しているが、現時点で実施には至っていない。実施に向けては基幹となる病院や医師の確保が必要となる。30年度も共同研究を続けたいと考えている。
- 公共交通マップの作成においては、多目的トイレやおむつ交換が出来る場所などユニバーサルデザインの視点で掲載されると良いと思う。
- 地域おこし協力隊の県内における定住率は。
感覚的には、仕事がなく定住につながっていないように感じる。
- 定住率は、把握できていない。
来年1月、定住担当の協力隊を中心にアンテナショップを会場に移住促進のためのトークライブの開催を計画している。
- 地域おこし協力隊の交流会はいつ頃行う予定か。
- 1月のトークライブの打合せとあわせて情報交換会の進め方などについて、ご意見をいただきたいと考えている。
- 事業費が0円から1万6千円となっているが何をするのか。
- 地域おこし協力隊同士の、日頃の連携が出来るようなネットワーク作りをやっていきたいと考えている。
- 地域おこし協力隊同士の連携がなかなか取れていないとも聞いているので、行政の支援をお願いしたい。

- 診療情報共有化事業において、既に目標値を越えているようであるが、目標の修正は必要でないか。
- 参加医療機関や登録患者数は今後も増やしていきたいと考えている。しかしながら、目標値の変更については、4つの医師会を中心とする理事会、運営委員会において、これまで協議されたことはない。
- 美術鑑賞事業について、事業の見直しにあわせ目標値の見直しも必要ではないか。
- 事業内容について、久留米市の中型バスの活用などを含めて事業の実現に向けて検討していきたい。
- 子育て支援センター事業において既に目標値を越えているようであるが、目標の修正は必要ないか。
- 子育て支援センターの利用数はセンターの利用者により大きな波があるため、実施状況を見ながら検討したい。
- ファミリーサポート事業は、昨年10月から大川市が開始しているが、推進の状況は。
- 大川市の単独事業としてスタートしているが、引き続き、連携を取りながら事業推進をしている。
- 歴史遺産活用等事業は、当初30年度からの事業開始の予定であったと思うが、事業の推進状況は。
- 各市町の遺跡等のストーリー性などを踏まえながら、コース設定検討を行うこととしている。
- 公共交通ネットワーク事業では、交通事業者等との協議となっているが、状況は。
- バス路線の再編には、バスの待機スペースの確保など課題があるため、交通事業者や大刀洗町との協議を行っている。
- 移住促進事業において、住宅展示場でのイベント実施の状況やアンケートの回答状況は。
- 住宅展示場でのイベント開催については、30年度を予定しており、今年度は調査検討を行うこととしている。
- 電力入札連携事業については、人材育成の分野に位置付けられているが、人材育成の姿が見えない。
- 電力入札には、専門的な知識が必要であるため、マニュアルの整備などノウハウの習得を目指すこととしている。
- 定住が進まない課題を把握することが必要であると思うので、地域おこし協力隊の全国での定住率の状況を次回でもいいので教えてほしい。
- 総務省の全国調査では6割となっているようである。福岡では7割のようである。就職先として、起業だけでなく就職も選択肢としていいと思う。
アンテナショップでの移住相談数や年齢層が分かれば教えてほしい。
- アンテナショップ2階に相談カウンターを設置し、週1回水曜日午後1時に久留米市の移住コンシェルジュを配置している。7月のオープン後、2組の相談があった。アンテナショップ以外にも、県のよかところ移住センターなどでも移住相談を受け付けている。
- アンテナショップに寄ったとき、柳川市の商品があったがなぜか。2階には、各市町のチラシやパンフレットなどが並べてあったが、1階にも置いてみてはどうか。
- 柳川の商品については、取り扱っている事業者が久留米市の業者であるためである。2階への誘導が課題であると認識している、チラシ等の配置なども含め、検討していきたい。

(2) その他

〔次回、全体会の案内〕

- 目標設定においては、達成したからいい、達成していないからだめだではなく、将来をどう思い描くかが重要であると感じる。
- これで本日の懇談会は終了する。